第42回全国豊かな海づくり大会
北海道大会

「守りぬく　光輝く　豊かな海」をテーマに
令和５年９月16日(土)、17日(日)に北海道で開催

1　開催の意義

昭和 60 年第５回大会以来、北海道では２度目となる全国豊かな海づくり大会が、令和５年９月 16 日（土）、17 日（日）に天皇皇后両陛下の御臨席のもと厚岸町と釧路市で開催されました。

北海道は、それぞれ特性の異なる日本海、太平洋、オホーツク海の３つの海に囲まれ、雄大かつ変化に富む山地、広大な平野部、数々の湿原や湖沼、そして多くの島しょ部などを有し、人々は古くからこの豊かな自然と緊密に結びつきながら独自の文化と歴史を育んできました。近年では、新鮮で豊富な素材を活かした美味しい食、世界自然遺産に登録された知床をはじめ多彩な表情を見せる風景など地域の魅力ある観光資源によって、国内外から多くの人々が訪れています。

北海道の周辺海域は、北方に広く展開する大陸棚や日本海に擁する武蔵堆など海底地形が起伏に富んでおり、道東太平洋沖では黒潮と親潮が交錯して潮目が作られるなど好漁場となっています。

そのため、漁業生産量は主要魚種である秋サケ、ホタテガイ、コンブを中心に数量・金額ともに全国１位となっているほか、湖沼や河川ではシジミ、ワカサギなどが生産されています。

一方、近年、海洋環境の変化や漁業者の減少、高齢化等により秋サケ、コンブ、イカ、サンマなどの生産量が大幅に減少し、漁業経営の悪化を招いており、道内では漁業生産の早期回復と安定を図るため、新たな増養殖への挑戦と栽培漁業の対象資源の生産回復に向けた取組を推進しています。

こうした中、北海道において「全国豊かな海づくり大会」を開催できたことは、本年４月に開催された「Ｇ７札幌　気候・エネルギー環境大臣会合」に続いて環境保全に対する道民の意識を高めるとともに、増養殖技術の向上や地域資源の有効利用・付加価値向上など様々な取組を通して、豊かな海の恵みを守り、次世代につなげる生産者の想いを全国に知ってもらう絶好の機会となりました。

大会公式ポスター

さらに、大会を通して世界的にも需要が高い道産食材や魅力ある地域イベント、四季折々の自然、独自の文化など「北海道ブランド」を全国に伝えることができました。

＜主な行事の日程＞

○式典行事

日時：９月 17 日 (日) 午後

会場：厚岸漁港屋根付き岸壁特設会場

○海上歓迎・放流行事

日時：９月 17 日 (日) 午後

会場：厚岸漁港

○絵画・習字優秀作品御覧、御懇談

日時：９月 16 日 (土) 午後

会場：釧路プリンスホテル

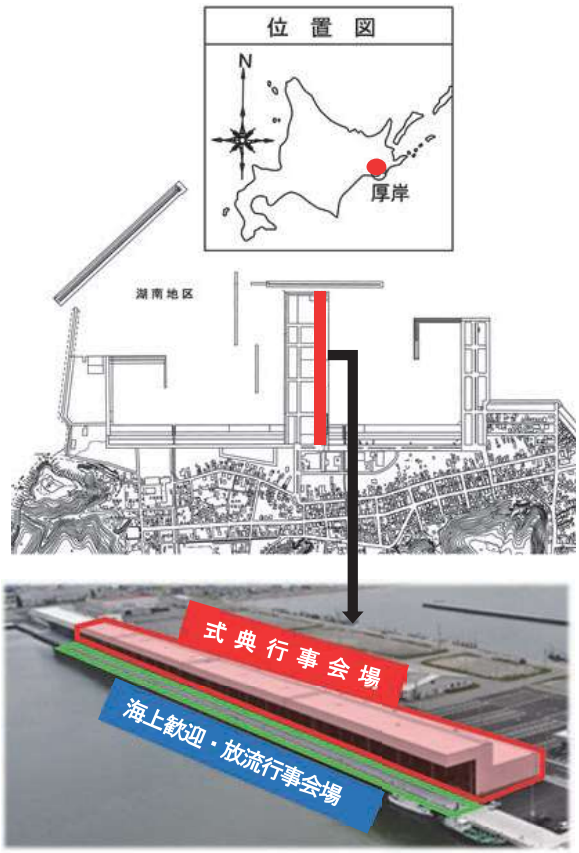
○関連行事「豊かな海づくりフェスタ２０２３」

日時：9月16日 (土)、17 日 (日)10 時～ 16 時

会場：厚岸会場（厚岸漁港湖北岸壁）

釧路会場（釧路市観光国際交流センター広場・幸町緑地）

2　北海道大会の特色



会場周辺図

大会では、道内屈指の規模を誇る屋根付き岸壁に設置した特設会場で式典行事を、また、同会場に隣接し厚岸湾や大黒島を望む風光明媚な漁港で海上歓迎・放流行事を行いました。２つの会場が海に面している利点を活かし、両行事を通して「海づくり大会」にふさわしい豊かな海を実感できる一体感のある会場づくりを行いました。

また、行事計画においては、大会テーマである「守りぬく　光輝く　豊かな海」のもと、基本方針に次の４つの柱を掲げ、各行事の企画・運営を進めました。

（1）豊かな自然の保全と継承

（2）地域を支える水産業の発展

（3）北海道ブランドの魅力発信

（4）北海道独自の歴史や文化の理解促進

3　式典行事

天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、全国各地から招待者 600 名が参加し式典行事を行いました。

（1）プロローグ

豊かな恵みをもたらす北海道の３つの海や自然の美しさを紹介するオープニング映像に続き、北海道漁協女性部応援大使を務める千堂あきほさんをナビゲーターに迎えて、伝統文化の実演を交えながら北海道漁業の変遷を振り返りました。

また、道内で技術が培われ、成長を遂げてきた「栽培漁業やブランド化の取組み」、海洋プラゴミ問題に挑む「廃漁網のアップサイクル化の取組み」、そして道内の高校生による「雑海藻の飼料への活用や藻場の再生の試み」などを紹介し、豊かな海と水産業・漁村を次の世代へと引き継いでいく重要性を発信しました。

プロローグ

（2）式典

天皇皇后両陛下が御着席された後、釧路カトリック幼稚園の園児の先導で北海道厚岸翔洋高等学校生徒による旗手団が入場し、冨原亮北海道議会議長に大会旗が手渡されました。

続いて、阿部国雄一般社団法人北海道水産会代表理事会長の開会のことばで式典の幕が開き、細田博之全国豊かな海づくり大会会長（衆議院議長）及び鈴木直道北海道知事から主催者あいさつ、若狭靖厚岸町長から歓迎のことばが述べられました。

天皇皇后両陛下の御臨席

天皇陛下からは、「この大会を契機として、人々の海や漁業への理解と関心が更に深まり、豊かな海づくりの輪が、ここ北海道から全国へ、そして未来に向けて大きく広がっていくことを願い、挨拶といたします。」とのおことばをいただきました（全文は別掲）。

天皇陛下のおことば

功績団体表彰受賞者及び作品コンクール受賞者代表の表彰に続き、作文コンクールで大会会長賞を受賞した小野珠和（おのみわ）さん（釧路市立昭和小学校３年）が作文「私の大好きな海。楽しいお手伝い」を発表しました（全文は別掲）。発表時に小野さんがコンブを干す姿やお祖母様と談笑する姿がステージ上のスクリーンに写し出されると、招待者はにこやかな表情を浮かべながら耳を傾け、会場は温かな雰囲気に包まれました。

大会終了後、小野さんは「たくさんの人に作文を聞いてもらって、色々な人から声をかけてもらえたことがうれしかったです。」と感想を話してくれました。

次に、天皇皇后両陛下から漁業関係者へ、北海道厚岸翔洋高等学校の生徒の介添えにより、ホタテガイ、マガキ、エゾバフンウニ、マナマコの稚貝等をお手渡しいただきました。

最優秀作文の発表

お手渡しの容器は、平成25年に北海道で初めて伝統的工芸品として経済産業省の指定を受けた「二風谷（にぶたに）アットゥシ」と「二風谷（にぶたに）イタ」の技法を用いて、二風谷（にぶたに）民芸組合（平取町）により制作されました。容器の側面にはオヒョウの樹皮から作られた糸で織られた反物「アットゥシ」や生活用具の編み袋「サラニプ」の一部を用いた装飾が施され、また、容器の蓋には木製のお盆「二風谷イタ」をモチーフとしたアイヌ文様の特徴的なウロコ彫りが施されています。

お手渡し容器

稚貝等のお手渡し

海づくりメッセージでは、栽培漁業に取り組む道内の漁業者４名が登壇し、北海道の豊かな海を守り、持続可能な漁業を次世代に引き継いでゆく決意を「海づくりメッセージ」として力強く宣誓しました。

続いて、坂本雅信豊かな海づくり大会推進委員会会長（全国漁業協同組合連合会代表理事会長）による大会決議が満場の拍手で採択された後、大会旗が鈴木知事から次期開催県の佐藤樹一郎大分県知事に引き継がれ、冨原道議会議長の閉会のことばで式典の幕を閉じました。

海づくりメッセージの発表

（3）エピローグ

式典終了後、土屋俊亮北海道副知事から功績団体表彰受賞者と作品コンクール受賞者に表彰状の授与が行われました。

エンディングでは、千堂あきほさんが大会を振り返った後、北海道釧路江南高等学校合唱部が式典行事に出演した高校生とともに、北海道命名150年の節目を記念して作られた曲「私たちの道」を合唱しました。

エピローグ

4　海上歓迎・放流行事

式典行事参加者が漁港会場に移動した後、厚岸町吹奏楽団等による歓迎演奏に続いて、海上歓迎・放流行事を行いました。

漁法紹介

漁法紹介では、北海道くしろ蝦夷太鼓保存会と釧路太平洋太鼓保存会による勇壮な和太鼓演奏を背景に、厚岸漁業協同組合所属の漁船８隻、試験調査船及び漁業取締船が港内を航行して歓迎の意を表するとともに、道東地域の代表的な漁法などを紹介しました。

続いて行われた放流行事では、天皇皇后両陛下をはじめ参加者全員がマツカワとホッカイエビを放流しました。

御放流

5　会場内でのおもてなし

招待者の皆さまには、昼食として開催地厚岸町の特産物をはじめとする北海道の農林水産物をふんだんに盛り込んだ大会記念弁当「あっけし彩り弁当」を御賞味いただきました。また、昼食会場では、厚岸町実行委員会による『おもてなし』としてアサリ汁と牛乳の無料配布を行いました。

大会記念弁当「あっけし彩り弁当」

6　絵画・習字優秀作品御覧、御懇談

９月16日（土）、大会行事の一環として実施した作品コンクール（絵画・習字）の優秀作品（北海道知事賞受賞作品）を天皇皇后両陛下に御覧いただきました。両陛下からは受賞者一人一人に作品の感想や学校生活等についての御質問があり、出席者は緊張しながらも落ち着いて受け答えをしていました。

作文を含めた作品コンクール全体の応募総数は約１万４千点となり、道内の多くの児童、生徒がこのコンクールに参加しました。

作品御覧

その後、両陛下は、道内漁業関係者や式典行事で表彰される功績団体表彰受賞者と御懇談され、漁業者の取組などについて説明を受けた後、若手漁業者の育成や温暖化の影響等について出席者と会話を交わされました。

漁業関係者との御懇談

7　関連行事

９月16日(土)、17日(日)の２日間、大会の開催に合わせて関連行事「豊かな海づくりフェスタ２０２３」を厚岸町内と釧路市内で開催しました。会場では、生分解性プラスチックや廃漁網を活用した製品の紹介など環境保全に取り組む企業等の企画展示のほか、蒸しカキ、ホタテやツブの炭火焼き、クジラ汁など地元グルメをはじめとする北海道の食の魅力を発信しました。

両日とも天候に恵まれ、「魚」にかかわるトークショーやサイエンスショー、地元アーティストによるコンサートなど多彩なステージイベントに両会場合わせて約8,800人が来場し、会場は賑やかなお祭りムードに包まれました。

17日午後のステージでは式典行事、海上歓迎・放流行事の映像配信を行い、来場者は拍手を送りながら大会の様子を見守りました。

関連行事会場

8　お手渡し稚貝等の記念放流

式典行事で天皇皇后両陛下からお手渡しされた稚貝等は、お手渡しを受けた漁業関係者の地元で記念放流が行われました。

ホタテガイは登栄床（とえとこ）沖合（湧別町）、エゾバフンウニは霧多布（きりたっぷ）沖合（浜中町）、マナマコは乙部（おとべ）沖合（乙部町）に放流され、また、マガキは厚岸湖（厚岸町）の養殖施設に納められました。

記念放流

9　結びに

今回の北海道大会は、新型コロナウィルス感染症の５類移行に伴い２大会ぶりに例年大会に近づけた形で開催することができました。

当日は天候にも恵まれ、天皇皇后両陛下の御臨席のもと全国から多くの皆さまをお迎えして無事に開催できたことを、この上ない喜びと感じています。

大会では、高校生など次代を担う若い世代に御参加いただき、豊かな海づくりの未来に向けて思いを一つに感じられる大会となりました。

これからも大会テーマである「守りぬく　光輝く　豊かな海」を心に刻み、豊かな海の恵みを守り、育て、次の世代にしっかりとつなげてまいります。

末筆になりますが、大会開催に当たり御尽力をいただきました関係各方面の皆様、多大な御協賛・御協力をいただきました各企業・団体の皆様に改めて深く感謝を申し上げます。

天皇陛下のおことば

第４２回全国豊かな海づくり大会が、昭和６０年の第５回大会以来、３８年ぶりに再びここ北海道で開催され、皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

四方を海に囲まれた我が国は、古くから豊かな海の恵みを受けてきました。また、山や森から河川や湖を経て海へ至る自然環境と、そこに育まれる生命や文化は、私たちに様々な恩恵をもたらしてくれます。この豊かな海の環境を保全するとともに、水産資源を適切に保護・管理し、次世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な使命です。

今大会の開催地北海道は、沖合に広く展開する大陸棚を擁し、海底地形が起伏に富むほか、道東太平洋沖では黒潮から分かれて北上する暖流と親潮が交錯して潮目がつくられるなどの自然環境に恵まれ、好漁場となっています。また、沿岸では、ホタテガイやコンブなどの養殖が盛んに行われるなど、我が国最大の水産物供給地域となっています。

その北海道では、令和３年９月に、太平洋沿岸域の広範囲で赤潮の発生が確認され、ウニやサケなど主要な水産物に甚大な被害が生じました。それから今日に至るまで、関係者が連携し、被害を受けた漁場の回復に向けた取組が進められてきていることに、心から敬意を表します。

現在、北海道では、日本海、太平洋、オホーツク海で、それぞれの海域特性に応じた多彩な漁業が営まれていると聞きます。また、各地域で次世代につなぐ水産業と活気あふれる漁村づくりを目指して、マツカワやヒラメなどの稚魚の生産・放流やサケ・マス類の魚類養殖など、栽培漁業の取組が積極的に行われるとともに、藻場の造成のような、海の環境を保全する取組も進められていると聞いております。

近年、多くの課題に直面している水産業に携わる皆さんの御苦労もいかばかりかと思いますが、本日表彰を受けられる方々を始め、全国各地において日頃から豊かな海づくりに取り組んでいる皆さんのたゆみない努力に深く敬意を表するとともに、こうした活動が、今後とも多くの人々によって支えられ、更に発展していくことを期待いたします。

「守りぬく　光輝く　豊かな海」をテーマとして行われるこの大会を契機として、人々の海や漁業への理解と関心が更に深まり、豊かな海づくりの輪が、ここ北海道から全国へ、そして未来に向けて大きく広がっていくことを願い、私の挨拶といたします。

大　会　決　議

四方を海に囲まれた日本は、世界でも有数の漁場からもたらされる四季折々の海の恵みを享受し、豊かで多様な魚食文化を築いてきた。

ここ北海道は、広大な大地と日本海、太平洋、オホーツク海の３つの海を有し、古来より厳しい自然環境と共存しながら漁労文化が育まれ、今では我が国の食料基地とも誇れる地域産業までに水産業を発展させてきた。

私たち水産関係者は、これからも水産資源の管理と環境・生態系保全の取組を行うとともに、国民への水産食料の安定供給に向けて「豊かな海」を将来に亘って引き継いでいく責務がある。

本年は、ここ北海道において、「守りぬく　光輝く　豊かな海」を合言葉に、海洋環境の変化を乗り越え、水産業・漁村の持続的な発展に一層力強く取り組んでいくことを、ここに決議する。

令和５年９月１７日

第４２回全国豊かな海づくり大会

作文「私の大好きな海。楽しいお手伝い」

私のおじいちゃんとおばあちゃんは、こんぶをとるお仕事をしています。私も日曜日や夏休みにこんぶのお手伝いをしに行きます。こんぶのお手伝いで私は、ねっこを切ります。かごいっぱいにねっこがたまると、持ってはこぶのが重たくて大変です。でも、私がねっこを切ると、おじいちゃんやおばあちゃんがよろこんでくれるので、うれしくなって、またがんばろうと思います。こんぶを干すお手伝いは、少しむずかしいのでなかなか上手にできません。まっすぐに干すのが本当に大変です。かた方の手に二本ずつこんぶを持って後ろ向きに歩くのがむずかしいです。もう少しお手伝いをがんばって、三本ずつ持って干せるようになりたいです。そしたら、きっと、おじいちゃん、おばあちゃんがほめてくれるし、今よりもよろこんでくれると思うからです。

でも最近は、こんぶがあまりとれないらしいので、昔みたいにこんぶが多くとれたらいいな、と思います。ママが「ママが小さい時は、お手伝いがいやになるくらいのたくさんのこんぶがとれていたんだよ。」「こんぶのために、じいちゃんたちがしていることがあるみたいだよ。」と話していました。そこで、どんなことをしているのか、じいちゃんに電話をして聞いてみました。こんぶが育つために海の中のゴミや草をきれいにする「ざっ草くじょ」をしていることを教えてくれました。ざっ草くじょは、毎年十一月から十二月の間、なみのない日をえらんで、大きなたわしのようなチェーンを船に引っかけて、それを引っぱって、海のそこをきれいにするそうです。そうすると次の年のこんぶに日光が当たって、こんぶが大きく育つそうです。そして、ばあちゃんたちは、海の近くの山になえ木を植えるそうです。木が育って、そのえいようが海に流れてこんぶのえいようになるそうです。海のこんぶと山の木がえいようでつながっていることをはじめて知りました。他にはこんぶのためにどんな事をしているのか、もっと聞いてみたくなりました。

私は海が好きです。じいちゃん、ばあちゃんのこんぶのお手伝いも好きです。私が好きで大切な海がこれからもつづくために、ゴミをすてたり、よごしたりすることは、ぜったいにしないとやくそくします。こんぶのほかにも、魚やイカも好きです。貝がらあつめも楽しくて好きです。天気の良い日は、ばあちゃん家のまどから海をながめるのも好きです。きれいな海をまもるため、私にはどんなことができるのか、調べてみたいと思います。

最後に、私は、じいちゃん、ばあちゃん、親せきの人たちとこんぶを干し終わった後に食べるパンやゆで玉子が、とびきりおいしくて大好きです。

釧路市立昭和小学校３年　小野（おの） 珠和（みわ）